

研修実施報告書

研修名

最新の福祉事情・福祉機器等をテーマとした集合研修事業

法人名

社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会

開催年月日

2025年8月27日「見えない・見えにくい人の防災について」（スマホ講座、火災予防等）
2025年11月26日「視覚障害者と関係者にとっての防災対策」
2026年1月27日「視覚障害者が未曾有の大災害からどのように命や暮らしを守ったか？」

開催場所

当会セミナールーム

研修の目的

視覚障害者にとって有益な情報の共有、社会的理解と意識の醸成、福祉サービスの向上を目的といたしました。

研修の内容

今年度は「防災」をテーマに、全3回のセミナーを開催いたしました。

第1回では、視覚に障害のある方にとって災害時に役立つスマートフォンの活用方法や最新アプリの情報共有を行うとともに、消防署より火災予防や防災設備の基礎知識についてご紹介いただきました。日常的に使用しているスマートフォンを防災ツールとして活用する具体的な方法を学ぶ機会となりました。

第2回では、全国で災害時支援活動を行っている「ゆめ風基金」の事務局長を講師に迎え、実際の避難所において視覚障害者が直面した困難事例について具体的なお話を伺いました。情報取得の困難さや移動・トイレ・配給時の課題など、現場での実情を共有いただき、平時からの備えの重要性を改めて認識する内容となりました。

第3回では、東日本大震災で被災された視覚障害当事者の方より、災害発生直後の状況から避難所生活、仮設住宅、復興住宅での暮らしに至るまでの実体験をお話しいただきました。時間の経過とともに変化する課題や心理的負担についても触れていただき、長期的な視点での支援や備えの必要性を学ぶ機会となりました。

本研修を通して、参加者一人ひとりが自身の生活に引き寄せて防災を「自分事」として捉え直し、日常生活における具体的な備えや行動を考える契機となりました。また、当事者の声を直接聞くことで、地域や関係機関との連携の重要性についても理解を深めることができました。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

研修では、避難所生活において、出演者が「自分が視覚障害者であることを周囲に理解してもらえず、不安や困難を感じた」という実体験を語られました。その中で、周囲に障害の有無が伝わる目印の必要性や、避難所内での配慮を促すための工夫（例：リボンや表示の活用など）について具体的な提案がなされました。

これを受け、セミナー参加者からは「議員と面談する機会があるため、ぜひこの内容を伝えたい」との発言があり、防災における合理的配慮のあり方や、地域における支援体制の整備について、行政や関係者へ働きかけていこうとする意識の高まりが見られました。

本研修は、当事者の生の声を共有することで、災害時の課題を具体的に可視化し、地域防災のあり方を改めて問い直す機会となりました。また、参加者が学びを地域や政策提言へとつなげようとする姿勢が生まれた点は大きな成果であり、今後の制度設計や避難所運営の改善に活かされる可能性を示すものとなりました。さらに、平時からの顔の見える関係づくりや、地域内での情報共有体制の構築の必要性についても共通認識が形成され、継続的な取り組みへと発展する土台が築かれました。

研修の参加者

【全体人数】約 100 名＋全国放送(インターネットおよび USEN)にて全国のリスナーの方々

【当該法人の参加人数】15 名

【当該法人以外の参加人数】85 名＋全国のリスナー